ルーテル

藤が丘だより

発行　月報委員会
発行日　2023 年 6 月 4 日　No. 109

どうか、わたしの歌が御心にかなうように。
わたしは主によって喜び歌う。

詩編　104 編 34 節 ・ 新共同訳

宣教 40 年の旅 -100 %感謝して-

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
テサロニケの信徒への手紙一 5 章 16-18 節 a

ルター派キリスト教会　日本福音ルーテル藤が丘教会　牧師　佐藤和宏
〒 227-0043　横浜市青葉区藤が丘 2-31-21　tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:https://www.jelc-fujigaoka.org/ mailto: fujigaoka@jelc.or.jp

シリーズ説教

「いのちに還る」

佐藤和宏牧師

ヨハネによる福音書 7 章 37-39 節

福音の日課では、主イエスが立ち上がって言われています。「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」と。ここで私たちが目を向けたいのは、「だれでも」という表現になります。私たちはついつい、教会に来ている人来ていない人、信じている人信じていない人、洗礼を受けている人受けていない人と、様々な枠組みを作って、無意識のうちに区別してしまうのですが、主イエスを通して明らかにされる神の御心には、そのような枠組みはないのです。「だれでも」と言われているように、すべての人が神の愛の対象なのです。それはすなわち、私たち教会が隣人となるべきなのは、すべての人ということなのです。

さて、今日から礼拝前の短い時間に「祈りの時」を持つことにいたしました。一部の皆さんからご要望をいただき、役員会でも何度か相談した結果、「教会の誕生日」と言われる今日から始めましょうということになったわけです。小さい祈りの時の中身についても、役員会で話し合われました。そしてその日の詩編を読み、祈ることにいたしました。その日の詩編については、なかなか礼拝の中でも取り上げる機会がないので、祈りの時に詩編に聞くことは、礼拝を前に、その日の主題に目を向けることにもつながり、有益だと思います。今日選ばれた詩編は、詩編 104 編 24-34 節、そして 35 節 b となりますが、29 節、30 節に次のようにありました。「御顔を隠されれば彼らは恐れ／息吹を取り上げられれば彼らは生き絶え／元の塵に返る。」「あなたはご自分の息を送って彼らを創造し／地の面を新たにされる。」

世の中のカレンダーが、月曜日を週の初めとする場合が目立って来ました。仕事などの都合から、その方が便利だということなのでしょう。月曜日から金曜日、言い換えるなら生産性のある時間となるでしょうか。これらを中心とするなら、そこが週の初めにあった方が便利にちがいありません。しかし聖書が週の初めの日を日曜日としているのは、主が復活された日であるからです。そこには人や社会の都合はありません。月曜日から金曜日にみる生産性もないように思われます。「土日」と言うように、単なる休みの日にみえます。しかしどれほど生活環境が変わっても、週の初めの日に、私たちは聖霊に満たされ、生き返るために、この礼拝の場に集められるのです。

説教題を「いのちに還る」としました。この「還る」という漢字には「様々な過程を経て、根源となるところへ戻る」。つまり、月曜日から金曜日という、生産性を意味するような日々、過程を経て、根源となる、今日の主題でいうなら「いのちの根源」となるところへ戻ってくることを言い表しているのです。こうして私たちは生きるのです。人の目には生産性のある日々が命をもたらし、生きるように映るのでしょうが、聖書が教えていることは、決してそうではないのです。この世からすれば、かえって非生産性とみえる中に、神の御心が示されているのであり、私たちは毎週、週の初めの日には、いのちの根源となる、主のもとに呼び集められ、新たに生き始めるのです。「だれでも」とすべての人々を招かれる主の御心に従う群れ、教会が教会として、すべての人々んお隣人となるために、新たに生まれるのです。（聖霊降臨）

「虹のひろば　藤が丘」初回報告　　○藤真○

教会宣教 40 年を記念し、地域に開かれた教会を目指して、主に高齢者の方々を対象としたお茶の会「虹のひろば」が始まりました。

その第 1 回は、ゴールデンウイーク明けの 5 月 8 日（月）13 時 30 分から 15 時に教会の集会室で行われました。

コロナ禍が 3 年以上も続き、藤が丘周辺の地域でも多くの方々が外出を控え、独りで過ごす時間が多くなりました。そんな状況に目を向け、午後のひととき、三々五々集まっておしゃべりや作業を一緒にすることで、心満たされる時間を過ごしていただきたいという、皆さんの願いが形になりました。10 名のかたが準備委員に手を挙げてくださり、4 回のミーティングを重ねました。まずは田○さんに、宣伝のためのチラシとポスター制作をお願いし、教会員に配布。それを持参してカトリック教会、もえぎ野地域ケアプラザ、藤が丘サロンなどを訪問し、お誘いやお声掛けに努めました。タウンニュースには○田さんが申し込んでくださり、掲載されました。開催数日前には、小○さんのご自宅に名○さん、○川さん、○木○子さんが集まってクッキーを焼いてくださり、心のこもったお茶の準備ができました。

いよいよ当日。受付を整え、6 つのテーブルにはテーブルクロスをかけ、お花を飾ってお客様をお迎えしました。教会員 20 名を含む 38 名の方々がご参加くださいました。はじめに佐藤先生が歓迎のことばを述べられ、親しみやすい飾らないお人柄を、参加した皆さんが感じられたようでした。

初回は、「みんなで歌おう　懐かしのメロディー」というプログラムにしました。○井○子さんのリードと○田久○子さんのピアノ伴奏で、お二人の豊かなご経験が発揮され、みんなが思いっきり大きな声で懐かしい歌の数々を歌いました。女性委員が可愛い和紙の絵を貼り付けた歌集が大活躍、その歌集の制作は○田さんが担当してくださいました。歌のあとはお茶とお菓子をお配りし、テーブルごとに賑やかな語らいの時間となりました。

最後に、○山○子さんが探してくださった吉野弘の「虹の足」という短い詩を私が朗読させていただき、閉会となりました。

教会員の皆さんが率先してお客様を楽しい雰囲気で包んでくださったことで、この会が心豊かなひと時となりました。男性の参加が心配されましたが、あにはからんや、14 名もの男性のご参加がありました。感謝で一杯で

小副川先生をお迎えして　　○屋○子、田○はる○

私は、先生から洗礼を受けて早や 15 年になります。その頃の私は一番苦しい時で、教会に来ては泣いてばかりいました。先生は私に「津屋さん大丈夫ですか」と、声をかけて下さいました。ある日、「この先はあるがまま、神にゆだねて過ごす」と話され、その通りにしようと思うようになりました。

そして今日、先生はウクライナ戦争の中、少年がウクライナからポーランドまで一人で歩き、行き着いた先で少女からぬいぐるみを渡された時、やっと笑顔をみせた話を例に、「人が一番困っているとき、言葉かけでも文字でもない、ぬくもりです。それにはふれ合いが大事」と強く話されました。心に染みわたるものがありました。

宗教改革５００年長崎の旅で先生にお逢いしたとき、「痒い所に手が届くっていいですね」とニコニコ顔でした。先生はお幸せなんだなと思いました。また、藤が丘教会で沢山のお話をお願い致します。ありがとうございました。（○屋○子）

先生にとって「藤が丘で感じた"ぬくもり"、何気ない小さなぬくもりがとても大切なものだと思う」とのお話の中で、コロナウィルス感染症のパンデミックがオンラインによるかかわりをもたらし、それが 3 年続いたなかで、「オンラインではできないことは、人と人とのぬくもりを感じること。一番大切なぬくもりを、このコロナ禍で実感した。自分が亡くなる時に必要なのは、たったひとつ。人のぬくもりだ。」とお聴きしました。

ここで私は、母が亡くなった時のことを思い出し、胸が痛くなったのです。

コロナ禍の中、病院にいた母は、家族との面会もオンラインになり、最期は"ぬくもり"のない中で、独りひっそりと逝ってしまいました。そんな別れ方が悲しくてならなかったのです。

お説教の終わったあと、小副川先生にこのことを伝えましたら、先生は「ほかのぬくもりがありましたよ」と即座に答えてくださいました。

「介護の方だったかもしれないし、そうだ、神様が共にいてくださったのだ」と、「母は幸せなぬくもりの中、旅立ったのですね。」私は、そう思いました。

心を騒がせず、神様の"ぬくもり"を感じて生きていくことの大事さを気づかせていただくことのできた、小副川先生との再会でした。ありがとうございました。（田○はる○）

す。

次回は６月12日、○山さんと○井さんのご指導で、藤が丘教会オリジナルの“布を使った”ハガキとミニカードを作ります。

暑中見舞いハガキに興味がない方のためにはゲームコーナーもあり、歌の時間も設けます。市○さんがお菓子をご寄付くださいます。

次回も、教会員の皆さんの積極的なご参加をお願いいたします。

私の洗礼への歩み

○野○江

私は、小学校低学年の頃から福岡県久留米市田主丸にあるルーテル教会に通っていました。中学入学の春、ロイド・ネービー宣教師から洗礼を受けました。

先生は、一人でも多くの人々を教会に招くために、日曜日の早朝から田植えに忙しい人を手伝いに行って、その人を教会にお連れする一方で、私生活を徹底に切り詰めていました。

その先生の姿をみて、私も将来こんな宣教師になりたいと思いました。

数年後、先生は東京の神学校で旧約学の教師になられましたが、その後、私たちの働く北海道で伝道をしたいと願い、帯広ルーテル教会の開拓伝道にあたられました。そこでの生活ぶりは変わらず、釧路に行ったときには、漁師が捨てた魚を拾ってきてそれを食するという、質素さと倹約に徹したものでした。

こうした先生にお会いできたことは神様からの最高の恵みです。

ザルツブルクの老人ホーム②

○藤○子

世界遺産になるような５階建大理石のミラベル宮殿。広い階段を上り、下り、エレベーターは付いてないが、庁舎として使い、結婚式も出来る。古き物を大事にする。市民に親しまれている建物。長い歴史のある建物。

多くの市民に利用させたいと中をリフォームして使っている老人ホームも古い建物。

日本の老人ホームの形態も良くなり、お金さえ出せばいいところに入れるが、身に合ったホーム、年金で払えるホームは、なかなか無く、これと思う所は待機者が多い。

高福祉、高負担と言われるが、高負担はあっても、福祉けずりの世の中、高福祉は望めない。

公助、共助は期待出来ず、自動、自己責任が伴う中で、以前は考えもしなかったが、残りの日々を、ザルツブルクの文化の誓いはあるが、自分の思い入れた道具に囲まれ、音楽を聞き、ゆったりとした老後を過ごしたいと、今日のマンションの友人と談話している。

●女性会だより

5 月 21 日　　16 名出席
司会、お祈り　名〇姉

1　聖書の学び
詩編 9 編 21 節、讃美歌 307 番
「思い知らせてください。彼らが人間に過ぎない事を」
自分を小さくされた者（自分自身）をも神様は愛して下さり、神様の愛が大きいことがわかる。

2　女性会例会
①お仕事会について
6 月からの飲食可能。詳細についてはお仕事会の世話役 4 名で協議する。
②物品販売について
6 月 18 日、礼拝終了後に行う。
③第 5 回春の会長会と女性会の集い
日程　6 月 24 日。10 時半～14 時半
会場　三鷹教会
テーマ　「つながる」
尚、対面とズームのハイブリッド方式での開催。参加者申し込みは 6 月 11 日まで
次回例会は 6 月 18 日

●牧師室より

5 月 14 日の定例役員会にて、〇上〇さんが熊本・健軍教会より転入されました。心より歓迎いたします。現在は川崎市内の施設で過ごされています。コロナの影響から、行き来できる状態ではありませんが、いつの日かお会いできることを、心待ちにしています。

また、信徒の皆さんの中で、入退院される方、手術を受けられる方がおられます。神さまの御守りをお祈りいたします。ご家族皆さんも不安の中にあると思います。主の慰めといやしとが与えられますよう、お祈りします。（佐藤）

今月、受洗記念日を迎えた皆さん

2 日　〇山〇子姉
3 日　田〇〇子姉、〇田喜〇兄
6 日　田〇〇夫兄、〇本〇子姉、〇蔵〇子姉

おめでとうございます。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」
テサロニケの信徒への手紙一5章16-18節a
●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから。

■7 月の予定

●8 日（土）宣教フォーラム
「五感に響く豊かな礼拝」
講師：加藤拓未氏、上村敏文氏
担当：田〇〇夫さん、〇野〇苑さん

●9 日（日）講演会
「難民の現状から」
-私たちに求められる関わり方を考える-
講師：原島博氏（ルーテル学院大学）
担当：〇藤真〇さん

※それぞれの詳細については、担当者にお尋ねください。

☞スマートフォンで、こちらの QR コードを読み込むと、教会のさまざまな情報を、確認出来ます。